

令和3年度の当初予算の主な事業をまとめました。

新型コロナウイルス感染症対策

■感染拡大防止対策の徹底

- ワクチン接種の実施 18億8,839万円
- PCR検査などの実施 4億8,800万円



- 入院患者受入れ医療機関への応援金 7,577万円

新型コロナウイルスに感染した市民の入院を受け入れる医療機関へ応援金を交付し、医療従事者の処遇改善を推進します（県への負担金）。

- 自宅療養者への配食サービスの実施 6,360万円

- こども園などにおける感染症対策の徹底 2億1,942万円

公立こども園などにおける衛生用品の購入や消毒、私立こども園などの感染症対策経費に対する補助を引き続き実施します。また、公立こども園手洗い場の温水化改修を実施し、感染症対策のさらなる徹底を図ります。

- 感染症対策を踏まえた避難所運営体制の確保 1,987万円

- 予備費 5億円
※新型コロナウイルス感染症に関する不測の事態に対応するため、昨年度当初予算から予備費を3億円増額

■市民生活への支援

- 新生児お祝い金の給付 3億5,048万円

対象者：令和3年4月2日から令和4年4月1日までに生まれ、出生により本市に住民登録した子の父か母

- 乳児保育料の軽減 3億8,510万円
※歳入減を含む

- 奨学生交付金の定員拡大 1,488万円

- 住居を失うおそれのある困窮者への支援 4,094万円

離職や廃業などに伴う収入の減少により、住居を失うおそれのある人に対し、住居確保給付金を支給します。

■事業者への支援

- 中小企業の事業継続・経営改善に対する支援 3,100万円

- テレワーク導入支援 3,000万円

重点施策(1) 超高齢社会への適応

①生涯活躍の推進

- **SIB***を活用した介護予防の強化 **新規** 7,080万円
高齢化の進展やコロナ禍における高齢者の外出抑制に伴う介護リスク上昇に対応するため、民間の知見を活用した成果報酬型の介護予防事業を実施します。
※ソーシャル・インパクト・ボンドの略語。民間の創意工夫を生かして社会問題の解決を目指し、成果に応じて報酬を支払う仕組み
- (仮)地域資源マップの整備 **新規** 500万円
高齢者の社会参加促進を図るため、地図情報システムを活用した集いの場の情報展開ツールを構築します。
- 高齢者への移動支援の拡大 **拡充** 4,196万円
移動が困難なひとり暮らしの高齢者などの支援のため、外出する際のタクシー料金を助成します。令和3年度から家族構成などの条件を変更し、対象者を拡大します。

②安心して暮らせる地域包括支援体制の強化

- (仮)地域リハインベーションセンターの開設 **新規** 5,661万円
病院と自宅で途切れのないリハビリが行えるよう、産学官医連携のもと、ロボット・IoT*・モビリティなどの先進技術を活用した「(仮)地域リハインベーションセンター」を豊田地域医療センター内に開設します。 ※様々なモノをインターネットにつなげ、より便利に活用すること
- 重層的支援体制の推進 **拡充** 400万円
民間事業者と連携した支援体制を新たに構築し、多様な社会参加を促進します。
- 介護に関わる人材への支援 **拡充** 4,386万円
介護人材の確保のため、多様な担い手の創出や介護サービス事業所の職場環境改善支援などを実施します。外国人介護人材の受入れ支援として、技能実習生などを対象に日本語学習支援を新たに実施します。

重点施策(2) 「ひと」と「しごと」が集まるミライへの投資

①産業拠点としての機能強化

- 高速道路インターチェンジ周辺の産業用地の創出 **拡充** 2億316万円
新たな産業用地創出に向け、豊田南インターチェンジ周辺地区におけるインフラ施設の予備設計などや、豊田東インターチェンジ周辺地区における用地造成の詳細設計などを実施します。
- 中小企業のデジタル化に対する支援 **新規** 2億円
中小企業(製造業、建設業、運輸業)の生産性の向上、イノベーション創出を促進するため、デジタル機器などの導入を支援します。

②住み続けたいまちづくり

- きめ細かな教育の充実 **拡充** 5億7,508万円
市独自の少人数学級の運営などのため、引き続き非常勤講師や非常勤養護教諭を配置します。令和3年度は小学1年生の学級編制の標準を30人とする市独自の少人数学級を試行します。

重点施策(3) まちの課題解決力の強化

①多様な「つながり」による豊かな暮らしの創出

- SDGsの達成に向けた取組発信 **7,752万円**
SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた本市の取組を国内外にPRし、一層の展開を図るため、とよたSDGsパートナーと連携したイベントや啓発事業を実施します。
- 地域貢献型ワークスペースの仕組みづくり **新規** **100万円**
地域とワークスペース利用者をつなぎ、地域の課題解決を図るためのコーディネートの仕組みづくりを稲武地区において試行実施します。

②持続可能な地域経営

- 市役所のデジタル化・スマート化の推進 **拡充** **2,998万円**
社会の急速なデジタル化を踏まえ、AI総合案内サービスシステムやRPA*などを活用するほか、新たにAIを活用した相談・支援システムの実証やスマート窓口の構築を推進します。
※ロボティック・プロセス・オートメーションの略語。ロボットにより業務工程を自動化させること
- 公立こども園へのICT導入 **新規** **1億3,577万円**
保育の質の向上、保護者・保育士の負担軽減のため、全公立こども園に保育業務支援システムを導入します。
- 動画による119番通報システムの導入 **新規** **165万円**
スマートフォンによる119番通報者からリアルタイムな現場映像を提供してもらうシステムを導入します。
- 公共施設の最適化に向けた検討 **新規** **605万円**
まちづくりの方向性、施設需要の変化、財政見直しなどを総合的に検証し、今後の公共施設の整備や管理の手法を検討します。

市制70周年記念事業



<テーマ>

- ①WE LOVE とよた・・・市の魅力を再認識し、郷土愛を醸成
- ②SDGs・・・SDGsの目標を推進
- ③レガシー・・・歴史、文化などの魅力を記憶に残し、後世に引き継ぐ

- 東京2020大会コミュニティライブサイト **9,541万円**
- 市制70周年記念ドラマ制作 **1,000万円**
- 豊田国際紙フォーラム **3,950万円**
- 食品ロス削減全国大会 **1,000万円**
- とよたアート応援プロジェクト **7,072万円**



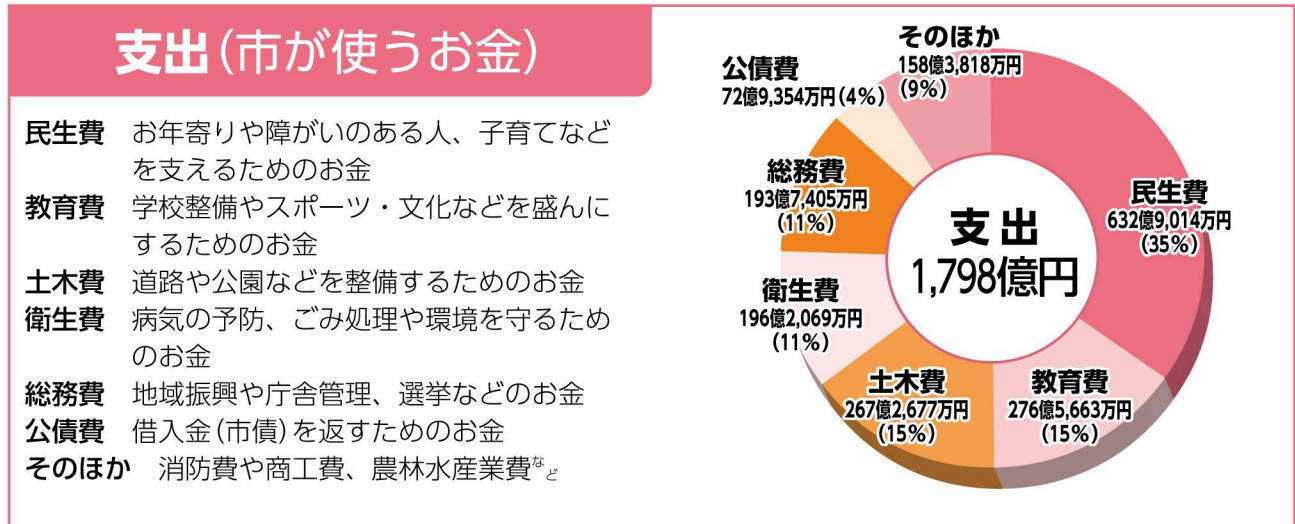
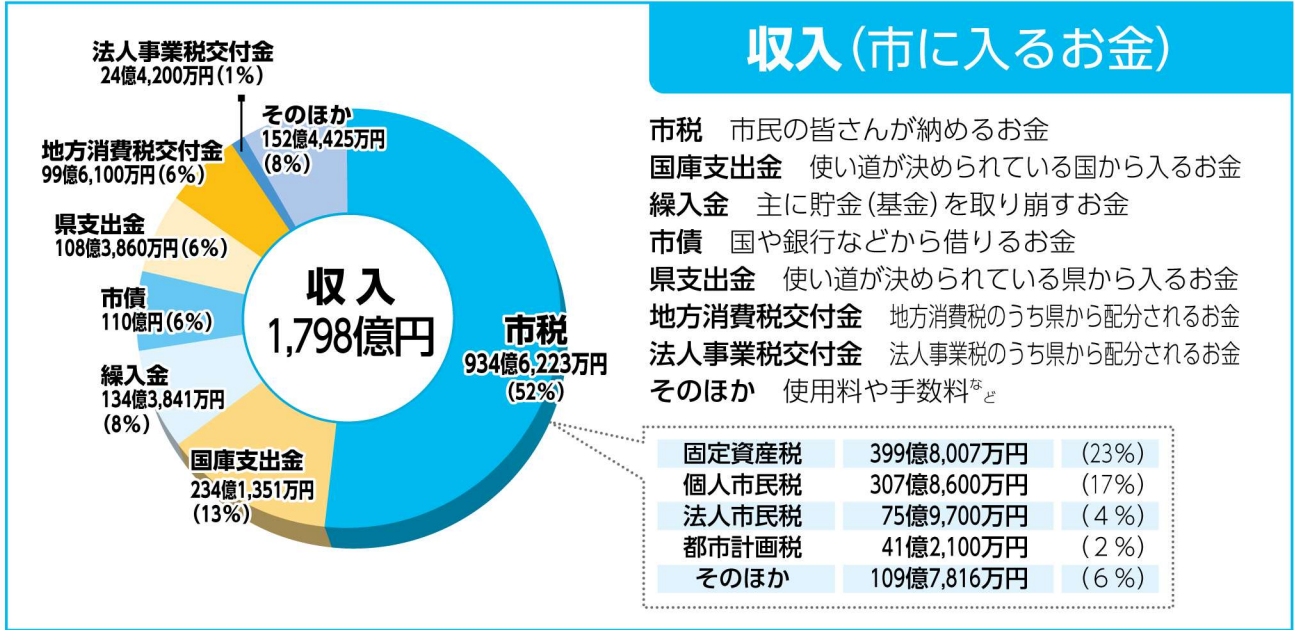
過去に開催した市民主体によるアートイベントの様子

ほか全20事業を実施

令和3年度豊田市の当初予算

一般会計

1,798億円 (前年度比1.5%減)



特別会計 698億6,568万円 前年度比 2.9%減

企業会計 378億8,478万円 前年度比 5.9%増

特別会計とは、特定の事業を行う場合に、一般会計と区別して設置する会計で、その特定の収入をもって特定の支出に充てるものです。

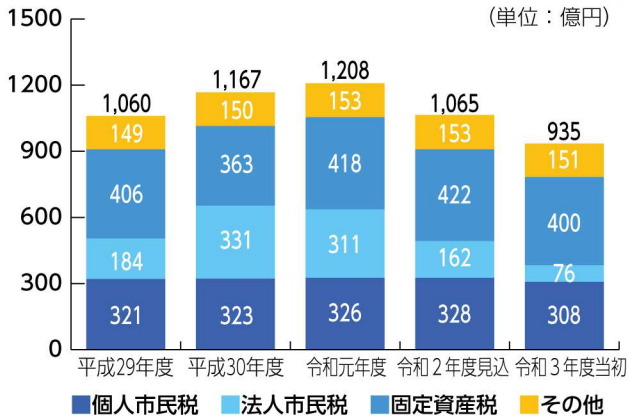
国民健康保険、介護保険、土地区画整理など10会計があります。

企業会計とは、独立採算制を原則とする企業の色彩の強い事業の会計です。

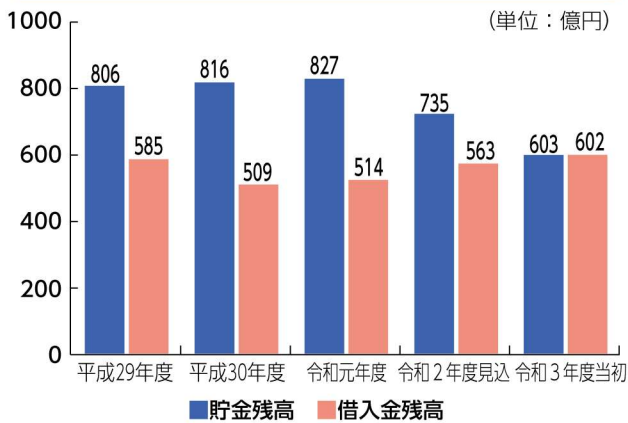
水道事業会計と下水道事業会計の2会計があります。

総額 2,875億5,046万円 前年度比 0.9%減

市税の推移



貯金残高と借入金残高の推移



目的のある収入の使い道

都市計画税 41億2,100万円

- 区画整理 17億4,600万円
- 街路事業 4億7,200万円
- 下水道事業への出資金 3億1,600万円
- 市債の償還(元金) 15億8,700万円

森林環境譲与税 1億2,886万円

- 森林整備 7,600万円
- 人材育成 2,694万円
- 木材利用 1,610万円
- 普及啓発 626万円
- その他 356万円

地方消費税交付金 社会保障財源分 50億1,200万円

- 療養給付費負担金 9億7,800万円
- 介護給付費繰出金 8億6,300万円
- 教育・保育給付費 4億4,600万円
- 定期予防接種費 4億3,100万円
- 子ども医療助成費 3億4,900万円
- その他 19億4,500万円

将来のまちづくりへの投資 323億円

- 内環状線建設事業(高橋細谷線)
- 豊田地域医療センター再整備事業
- (仮)豊田市博物館建設事業
- 名鉄三河線若林駅付近連続立体交差事業
- 市民文化会館長寿命化事業^{など}

令和3年度一般会計予算額(市民1人当たり)

42万5,980円

普通建設事業費



道路や建物の建設^{など}

7万6,458円

物件費



施設維持管理費^{など}

8万6,026円

扶助費



児童手当・生活保護費^{など}

8万64円

人件費



職員の給料^{など}

7万8,093円

補助費等



補助金^{など}

5万4,378円

繰出金



特別会計^{など}への補填

2万1,172円

公債費



借入金の返済

1万7,280円

維持補修費



道路や河川の修理^{など}

8,078円

※そのほかの費用は4,431円。令和3年2月1日現在の人口42万2,086人をもとに算出しています